

2018/9/20 のケミマガ 408 号で、【2018/09/14】Evaluation of Directive 2011/65/EU on the restriction of the use of certain hazardous substances in electrical and electronic equipment (ROHS): 欧州委員会(DG Environment)は、2011 年に発効した RoHS 指令のパフォーマンスを評価し必要に応じ規制の簡素化または改善が可能かどうかを明確にするため、2020 年末までに RoHS 指令を評価することを官報公示した [https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?qid=1537231315295&uri=PI\\_COM:Ares\(2018\)4721321](https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?qid=1537231315295&uri=PI_COM:Ares(2018)4721321) という、欧州委員会が RoHS 指令のパフォーマンスを評価するロードマップを公示した記事を紹介しました。

電気電子機器(EEE)に有害物質の使用を制限する欧州指令(RoHS)は EEE 廃棄物の環境に配慮した処理を可能とすることで人の健康と環境保護に貢献することを目的とし、2003 年 2 月に制定され 2006 年 7 月に施行されています。2011 年 7 月には改正指令 2011/65/EU(RoHS 2)が公布されています。

現在、EEE に対して鉛、水銀、カドミウム、6 価クロム、ポリ臭素化ジフェニル(PBB)、およびポリ臭素化ジフェニルエーテル(PBDE)の使用が制限されており、2019 年 7 月から 4 種のフタル酸エステルの使用も制限されることになっています。

欧州委員会は、2021 年 7 月までに RoHS 指令のパフォーマンスを評価し、その結果を欧州議会と欧州理事会に報告することになっていますが、この評価は、循環型経済に関連した他の欧州委員会の活動(化学物質、製品、および廃棄物の法律間のインターフェースに関するものを含みます)を背景として行われるものです。

RoHS のパフォーマンス評価は次の項目を対象として進められます：

RoHS の目標はどれくらい達成されたかという法律の有効性

RoHS がもたらしたベネフィットに対するコストは正当なものか、物質の制限からの免除はどの程度効果的かの効率性

RoHS は欧州のニーズにどれくらい対応できているのか、新しい課題に対応するためどれくらい柔軟性を持つかの適合性

RoHS は、例えば廃棄物枠組指令、化学物質の使用における REACH 規則、製品設計のエコデザインとの一貫性

RoHS の結果として得られた付加価値は、それが存在しない場合に加盟国が達成した可能性のあるものと価値の比較

このロードマップに対する意見募集（2018/9/14-10/12）は、一般市民を含む利害関係者からの経験や具体例を収集することです。

[https://ec.europa.eu/info/law/better-regulation/initiatives/ares-2018-3106007\\_en](https://ec.europa.eu/info/law/better-regulation/initiatives/ares-2018-3106007_en)